

Κ Ο Σ Μ Ο Σ

Vol. 11, No. 1 (No.33) 1976. 6. 30

夏休み、旅への、いや読書への誘ない

後 藤 辰 男

夏休み、学生だからこそ満喫出来るこの特権的期間の第一の楽しさは、日々の窮屈な時間割から逃れて、同じ24時間ではあるけれど、それを自分の思いのままに組み替えて自由に生きることにある。しみ一つない純白な日々の連続——到来しようとする夏休みはいつでも美しく眩しい。あらゆることが可能で、しかもそのすべてが美事成就されるように思われてくる。

こんな期待で胸がふくらむとき、誰もが遠い見知らぬ場所に旅立ちたいと思うに違いない。輝かしい旅のイメージ——光に満ち満ちた青空、灼けつくような砂浜、白い雲、泡立つ波。あるいは又、しずまりかえる樹林、深い谷、蟬時雨。そして又、見知らぬ町の家々の佇い、僕たちを思いがけない優しさで包んでくる人情。これらはいずれも日常性からの離脱のシンボルであり、だからこそ誰もがノスタルジーのように恋い焦がれるのだ。

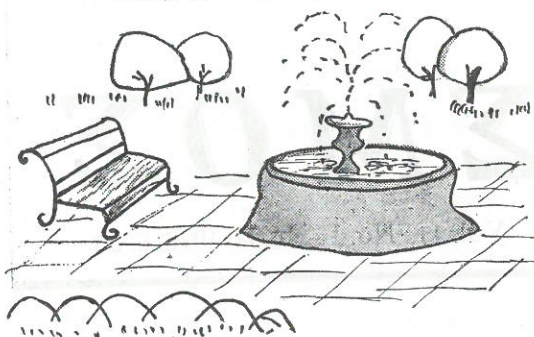
だが、読書も又、旅に似ていないだろうか。たしかに僕らは空間を移動しはしない。僕らが坐るのは相変らず乱雑な机の前だ。しかし、頁を開くや否や僕たちは、その本の中に閉じ籠められていた時間につかまり、いつの間にかその時間の流れに沿って生活し始める。そして、たしかに日常のそれとは異なる空間にいつの間にか導かれているのだ。旅が無限に前方に向う延長の観念によって導かれていくのと異なり、僕らはむしろ深さの感覚に終始ひたされているのだが、両者はともに一つの冒険なのではなからうか。そして更にその純度ということになると読書は旅よりも遙かに純度の高い心的冒険なのではなからうか。

現代の心白ける功利主義的情況の中で僕らの読書もその影響から逃れられず、この高貴な精神的愉楽に実利の苦い観念の影がさすのだが、それでも依然として、読書は、旅と同じく、いやそれ以上に人間回復をもたらす一機会たることを失わない。

期待で始まった夏休みが悔恨で終わることがないように祈ってやまない。
(図書館長)

特集 夏休み直前号	
ぶらざでりぶろ	2
松姫物語現代考	4
視聴覚室より	5
参考室より	6
参考図書解題	6
分館雑記	7
投書箱から	8
日誌(51年4～5月)	8

ぶらざでりぶろ



正村 共宏 他編

産業社会の将来—講座マルクス経済学5

(日本評論社) (発注中)

もう夏休みも目の前、ゆっくり解放されて自由をたのしめる時期である。みんな海に山に色々な計画があるが、大学生ならやはり本の一、二冊はお伴にしたいものだ。

旅のザックにつめるには文庫本が便利だし、木蔭でゆっくり風にふかれて昼寝するには顔に被る程度の、やや大き目なものが都合がよい。文学以外の学部なら専攻を離れて小林秀雄のものを読むのもよいし、あるいは最近、再刊された谷崎潤一郎の文章読本と三島由紀夫のそれとを比較してみるのもよいだろう。真面目な向きには、ふだんは読まぬ古典、たとえばダーウィン、デカルト、モルガン等と取り組んでみるのもよい。

せめて朝の涼しいうちぐらい机に向きたいという人には、休みらしく気宇を大きくして未来を考える「産業社会の将来」と銘打ったこの本を読んでもみるのも一つである。もっとも、よく読んでみるとその内容は必ずしも未来に力点があるのではなく、現在に中心がある。マルクス経済学の講座となっではいるが、その立場はやや異色である。

およそ社会科学を学ぶ者は、好むと好まざるにかかわらず、マルクス主義を避けて通ることはできない。しかもまた、じつはこの関係の本を読むくらい気づまりなものはない。マルクスの片言隻句を不動の教条とする人々は、呪術的な思考に囚われて、その枠から抜け出す自由さをもたない、あるいは敢えてもとうとしないからだ。

数名の論文集から成る本書は、こうした呪術からの解放に役立つ。少なくとも、資本主義社会の

分析には冷静、鋭利さを示すにもかかわらず社会主義社会となると一変、飛躍して浪漫的なユートピアに飛びこんでしまうオールド・マルクスストの思考法とは、異っている。マルクスから学ぶと同時に、マルクスの有効性と限界を明かにする、と言う著者たちの言葉に、本能的な反発を感じる人ほど、読む必要があろう。

今日の若者たちには、社会主義社会は世界の現実である。大内力編「現代社会主義の可能性」(UP選書)は、社会主義社会を不可避とする前提に立った書物ではあるが、現実の社会主義社会がマルクス・エンゲルスの構想した社会と異なり、かなり厄介な問題をかかえていること、現存の手本には違和感を感じている点では本書の著者たちと共通である。両者を併せて読むと、面白かるう。
(社会学部教授 岩井 弘融)

1. 原色図鑑 (全52巻)

2. カラー自然ガイド (全30巻)

(保育社) (一部参考室・発注中)

「自然を保護する」というと、そんな思い上がったことをするなという人がいる。そういう人のために自然を生物的自然といいかえることにしよう。

生物的自然は決して堅牢なものではなく、人類の破壊力の前にはひとたまりもない。だから自然保護とは人類による自然の破壊を、人類の手によって護ることにほかならないということになるのである。

ところが、自然をこのように整理してくると、自然保護とは特定の動物や植物を絶滅から救うことであろうと思う人がでてくる。大型獣類、美しい声で啼く鳥類、きれいな花をつける高山植物…しかし、これらは自然を構成する生きものたちのほんの一部にすぎない。自然はもっともっと様々な生きものたちによってつくり上げられている。いふならば、すべての生きものたちの全体社会(生態系)が自然なのである。上に挙げた動物植物は見方によっては全体社会の中でのスターであり貴族である。したがってそれらが生きていくためには、見ばえのしないもろもろの庶民的な生き

ものたちの存在が必要なのである。

人間を、そしてその社会を知るために庶民を知ることが大切であるように、自然という全体社会を知るためにはやはりこうした庶民的生きものたちの存在を無視する訳にはいかない。少々きざないいい方をするなら、自然観の民主化が自然を正しく認識する第一歩だといってよいであろう。

しかし、多くの人たちの自然観は極めて封建的である。社会の中で進歩的だといわれている人もその例外ではない。自然保護が叫ばれ、その必要性が判っているながら、自然破壊の止まない原因のひとつがその辺にあるのかもしれない。

それなら自然観の民主化はどのようにしてはかったらよいのだろうか、大変むづかしいことではあるが、やはり、すべての生きものに平等の関心を寄せ、野生動植物に対する幼稚園レベルの知識の改善をはかることにつぎ。具体的には、野外で生きものに接する機会を積極的にもつことであろうが、それと同時に、全く斬新な気持で図鑑類に親しむのも一法であろうかと思う。

まえがきだけで予定の紙数が尽きた。ここにいくつかの図鑑を列挙しておこう。夏休みの余暇を利用してこうした図鑑類をじっくり眺め、生きものの世界を、そうして自分の立場を見なおしてみるのも、人生のひとつとこまとして大切なことであろう。

(文学部教授 大野 正男)

渡辺 正雄 著

日本人と近代科学—西洋への対応と課題—

(岩波新書 No. 952) 404 : WM

著者は著名な科学史家であり、また思想家でもある。この本は明治初年、いわゆる文明開化期におけるわが国の伝統的文化ともっともすすんだ西洋文化・文明としての異質文明とが、どのようなかわりをもったか、と「われわれの西洋への対応の姿を明らかにし、基本的な課題の所在をさぐろうとする」ものである。とくにわが国の近代科学、近代技術、西洋の学術文化の導入には三つの欠陥があるという。まず第一にそれを生み出した思想的、文化的基礎を顧慮しないで、ただ技術的に導入・模倣し利用したにすぎない。第二はこ

れらの西洋の文化・文明は本来諸分野がそれぞれ相関関係をもって組みたてられているにもかかわらず導入に際しては各分野がばらばらに学ばれ導入されていること、第三として、もっとも進んだ西洋の近代科学・近代技術はそれなりの土壌の上に築き上げられているのに対し、わが国の風土、経済、社会さらにわが国の在来のものになら関係なく、移植・導入され、そして併存させていること、これを要約すると総合的視点にたって検討されず、場あたりの導入がなされているということである。

たしかに欧米先進資本主義国の外圧に対抗するためにとられたものであり、「富国強兵」「殖産興業」のスローガンにそった後進国日本の必然的なコースであったことは事実である。それにもかかわらず、すでに百年の歳月を経過した今日まで依然として欧米追隨的であり、西洋コンプレックスを強くもっていると指摘する。著者はその結びに「こうした状態は、要するに、精神的独立の欠如、人間尊重の欠如、世界観を確立させるような価値体系の欠如に由来する」ものであるという。まさにロッキード事件にみられる、児玉氏をはじめ商社・関係者の国会での喚問の様相は米国会でのコーチャン氏の態度とはまるで似もつかぬものである。GNP第2位とか、国民生活、所得も国際水準に達したとはいえ、依然として百年前のものと大差はないことを端的に指摘するものであり、本書をただ科学史の読みものとしてよりも、日本人そのものを的確についたものとして、一読されることをすすめる。

(経済学部教授 菊浦 重雄)

W. Stannard Allen

Living English speech

(Longman 社) (発注中)

現在の日本ではアメリカ英語のイントネーションが一般に流行しているが、英語のロングセンテンスとなると、イギリス英語のイントネーションほど完全にアメリカ英語のイントネーションを吹き込んだテープは発売されていないし、アメリカ英語のイントネーションの研究についての完全な

参考書も発売されていない。

以上の様な理由から、私はアメリカ英語のイントネーションを勉強するには、先ず、イギリス英語のイントネーションの参考書から勉強することをお勧めしたい。W. Stannard Allen と言う人の書いた“Living English Speech” (Longman 社発行) が良いと思う。この本を読んでおくと、アメリカ英語のイントネーションに出会った場合に、英米のイントネーションの差がはっきりと分かって勉強し易いと思う。

Allen の説では、「外国人が英語の勉強をする場合には、英文の構成を先ず知る必要があるが、現代の口語英語ではそのためには、発音の研究を無視しては無理である。この Living English Speech と言う本は、外国人が英語を勉強する場合に起る色々な問題を考へて、練習問題を作っている。その理由は、英語では如何に1つ1つの語

の発音を正確にきりはなして覚えても、それだけでは駄目で、自分の意志を伝えるためにはその言葉を正しく動かして使えるように訓練を自分でする必要があるからである」と述べている。

私は日本人が英文を和訳する場合は、勿論、綺麗な発音でその英文を音読出来る能力が必要であるが、日本語を英訳する場合にも、綺麗に英文を音読する能力は必要であって、音読が上手な人は、自然と英文が頭に出てくるので、和文英訳は容易である。

若しも、上手に、綺麗な発音で英文が音読出来る人と、音読が上手に出来ない人との場合を比べてみると、音読の上手な人の方が英文の暗記が容易だからである。

この本は、テープも発売されているので、利用されると、一層、能率的である。

(工学部助教授 萩原 敬一)

松姫物語「芸術新潮」6月号に甦える

奈良絵本として、当館所蔵の中でもっとも貴重な図書である「松姫物語」が、この程月刊雑誌「芸術新潮」に解説、絵入で掲載された。

「松姫物語」についての解説は既に図書館ニュース創刊号で、本学文学部教授吉田幸一先生によってなされているが、雑誌掲載の鑑賞のため、ここに改めて概要を紹介しよう。「松姫物語」は室町時代に書かれた物語草子の類で物語絵を伴う絵巻物である。物語の内容は(1)都五条に住む中納言の子息中将は山科の里に住む松姫の美しさにひかれ、文をおくるうちに恋仲になる。しかし中将の親は松姫の家が貧乏であると言ってさとするが、中将はそれを聞きいれず二人は契りを結ぶ。(2)ある日、姫は山科から姿を消す。中将は姫の姿を深しもとめて山野をさまよう。3年後の秋、中将は松姫によく似た娘に出合う。娘は中将を茅屋の中に誘い、(3)自分は3年前、中納言の使いの者に殺され捨てられたことを物語って姿を消す。(4)夜が明けると中将は、鬘體に枕を並べて寝ていることに、気がつき愕然とする。この悲しみのあまり、出家して白骨を頸にかけて高野山に上がり巡礼する。以上(1)~(4)までの物語絵が雑誌に掲載された部分である。

写真は原本の絵より一段と鮮明で美しく思われる。今更ながら写真技術の進歩に驚かされるが、この精巧に撮りだされた悲恋物語の一つである松姫物語の主人公達はこの絵をとおして、現代の人々に何かを訴えている様な幻覚さえ感じる。物語の主人公、中将が松姫によせる愛の強さ、それを貧乏という単純な理由で引き裂く無情の親達の策謀、それでもあきらめず姫をさがし求め、山野をさまよう中将の愛の深遠さが、この絵から伝わってくる。文献価値が高く評価され今なお多く利用されているのは、物語の美学的な秀麗さと、悲恋物語としての絵巻物が室町時代にできたということのみでなく、何か現代社会の人間に通じる人生無常感として、男女の情念に共通するものがあるように思うのは、一人よがりの認識であろうか。掲載された絵を観る限りでは、大和絵として名高い「松姫物語」の絵のもつ美的感覚は歴史の経過と時間の空間を忘れさせ、また時代の流れにかかわりなく、大衆の欲求に答えてくれる不可思議な芸術的価値を甦えらせているように思える。芸術的な資料価値は可能なかぎりにおいて、人々の精神的欲求のヴィジョンであるということはこの絵巻は暗示してくれた。(池田)

視聴覚室—音の花園への集い

多彩なバラの花びらが風そよぐ庭園の中を華やかに踊る季節……ルルル…ルルル、音とふれあう歓びをもとめて多くの学生が、視聴覚室という音の花園へやってきます。胡蝶や蜜蜂のように。

その花園の一角には、授業に関連する色とりどりの資料があり、日本文学や英米文学の朗読もの、民俗芸能や宗教関係の資料群、そして語学関係の資料もあります。

別の一角には、クラシック作品を中心とした音楽レコード・テープがあり、3B（バッハ、ベートーヴェン、ブラームス）をはじめ、シベリウスやストラヴィンスキーなどまで聴き入ることができます。（※月～金曜日、午後2:00～4:30の時間帯に個人利用ができます）

そして花粉や芳しい匂いが花園から周りに発散していくのに似て、音楽関係と一部をのぞいた資料を室外に貸出しています。語学テープ（英・独・仏・中など）をはじめとして記録もののレコード・テープなどが対象となります。（※貸出方法、期間については一般図書に準じます）

また昼休みには、レコード・コンサートやスライド・アワー、そしてテレビ・アワーと盛りだくさんのプログラムを届けています。（※月～金曜日、0:00～1:00。プログラムは2階入口に備えてあります）

では、さいごに昨年度の利用状況を参考までに紹介しておきます。（※数字は個人利用時の件数です）

A 作曲家別……①ベートーヴェン(138) ②モーツァルト(90) ③バッハ(87) ④シューベルト(37) ⑤ドヴォルザーク(28) ⑥チャイコフスキー(27) ⑦ブラームス(25) ⑧ショパン(19) ⑨ブルックナー(15) ⑩ヴィヴァルディ(15) ⑪プッチーニ(15)

B 曲名別……①ベートーヴェン「交響曲第9番(合唱)」(29) ②同「交響曲第5番(運命)」(16) ③同「交響曲第7番」(16) ④バッハ「ブランデンブルク協奏曲」(16) ⑤ドヴォルザーク「交響曲第9番(新世界より)」(16) ⑥ヴィヴァルディ「四季」(15) ⑦ベートーヴェン「ピアノ協奏曲

(皇帝)」(14) ⑧ベルリオーズ「幻想交響曲」(14) ⑨ホルスト「惑星」(14) ⑩モーツァルト「交響曲第40番」(13) ⑪リムスキー＝コルサコフ「シェヘラザード」(13) ⑫プッチーニ「トゥーランドット」(12) ⑬チャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番」(12) ⑭バッハ「トッカータとフーガ」(11) ⑮シューベルト「交響曲第8番(未完成)」(11)

C ジャンル別……①クラシック音楽(691) ②クラシック・ポピュラー以外の音楽(120) ③ポピュラー音楽(111) ④語学(93) ⑤FM放送(91) ⑥ノン・ミュージック(33)

※ 夏期休暇期間中（7月15日～9月14日）は整理作業のために閉室となります。なお昼休みのコンサートは7月23日まで行います。

（佐久間）

夏休み貸出について（白山）

期間：7月5日(月)～9月14日(水)

冊数：一般学生3冊・大学院生・卒論用5冊

返却日

7月5日(月)～7日(水)——9月16日(木)

8日(木)～10日(土)——17日(金)

12日(月)～14日(水)——20日(月)

15日(木)～17日(土)——21日(火)

19日(月)～30日(金)——22日(水)

8月2日(月)～13日(金)——24日(金)

16日(月)～27日(金)——25日(土)

30日(月)～9月14日(火)——27日(月)

注意：①7月3日以前に借出の本は7月10日までに返却。継続の場合は7月5日～14日に手続して下さい。

②大学院生の場合7月5日から14日までの夏休み貸出期間中に予約者がなければ継続は可能です。

③通信教育のスクーリング生および教職講座については追って掲示いたします。

参考室の利用案内

春休みに参考室の本の位置が変りました。この機会に参考室の一般的な利用方法等について案内いたします。

1. **本の位置**——位置は別図の通りです。変わった点は①百科事典が一番前に出てコーナーができたこと、②利用の少ない古い本（人名録、昭和34

年以前の統計書など）を閉架の1階に収めたことです。1階にある本は①、教員閲覧室にある本は教の印が参考室のカードに記入してありますので、利用される場合は、係員に申出てください。

書架は3つの部分に大別してありますが、本の順序は、それぞれの部分の中で、日本十進分類法に従って並んでいます。

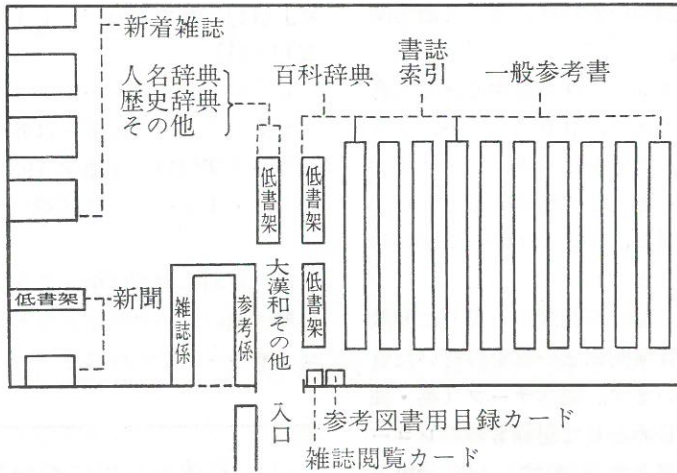
2. **参考図書とは？**——参考室に置いてある本は、百科事典、本や資料のリスト（＝書誌・目録）、各種辞典、白書、年鑑、統計書など、主として全体を通読する必要のない本です。

3. **利用の方法**——参考図書の以上のような性質と利用頻度がきわめて高いために、館外借出し

はできませんし、閲覧は参考室の中に限られています。参考室外で利用したい場合は、コピーをして下さい。

参考図書の目録は、辞書体目録だけでなく、参考室にも、参考図書だけの目録が一括して置いてありますので、御利用ください。

参考雑誌室見取図



4. **その他のサービス**——調べものをする際に東洋大学の本だけでは間に合わない場合があります。そのために、参考室では、国会図書館の本の借出し、他大学図書館への紹介状の発行、必要な資料の探索の援助、よその図書館へのコピー依頼な

どを行なっております。資料探しや図書館利用上のことでわからないことがありましたら、遠慮なく、参考係を御利用ください。

5. **低書架**——参考室の中央入口付近に低い書架が置いてあります。ここには、利用が頻繁で、大型の本が置いてあり、台の上に広げて読むことができるようになっています。例えば、世界大百科事典、大漢和辞典、地図などです。

参考図書の解題

—工学部関係—

機械加工研究会編

例解基礎 機械公式活用便覧

(実業図書出版)

現場の仕事にたずさわったり、また、専門的な研究に従事している者が、ごく基本的な公式を度忘れしたり、簡単な知識を知らなかったりすることがしばしばある。そのようなとき、手軽に利用できる便覧として、本書が編まれた。だから、数

学や物理学の公式から始まって、機械工学全般にわたって基本的な公式や図表、実験式を網羅し、豊かな例題をそえている。また、初心者にも役立つように、器具や工具の使い方が説明されている。この本はどこまでも実際の場で役立つように書かれたものであって、基礎的実用書と云えよう。(530.3:K-4)



目録コーナー

配置変更のお知らせ

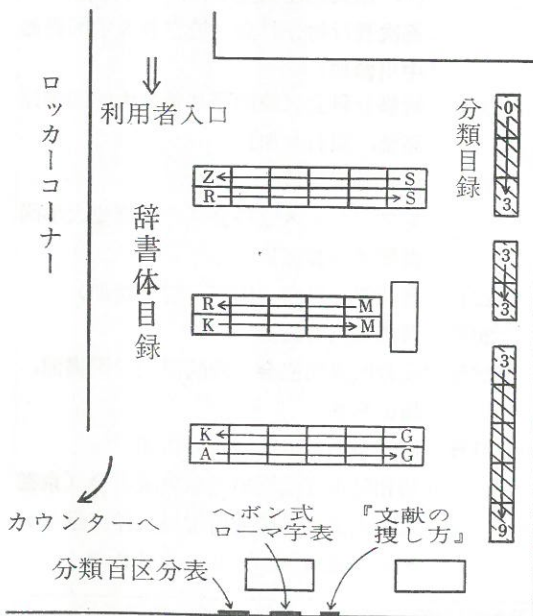
春季閉館期間を利用して、目録コーナーの配置変更（別図参照）と、各目録ケース内の拡張を行いました。2年生以上の方で、従来の配置やカード配列に慣れている方は、とまどわれる事も多いかと思いますが、御了承下さい。

＜分類目録＞ ブルーの見出しで、北側の窓に沿って10ケース並べてあります。（別図、斜線部）各抽出には、日本十進分類法の分類区分による数字の見出しが入っており、100区分の表は、壁に掲示してありますので、御参照下さい。

＜辞書体目録＞ 白の見出しで、壁と並行に大きく3列34ケースになっています。各々の列のケースに含まれているカードの最初と最後のアルファベットは、ケースの横に表示してあります。また、抽出の大部分を占めるような見出し語は、各抽出の見出しに、アルファベットだけではなく、漢字等で表記してあります。件名（図書の主題を一定の語で表わしたもの）も、できる限り見出しに書き出しましたので、御活用下さい。

尚、各目録の詳しい使い方は、『図書館利用のしおり』を参照下さるか、係員にお尋ね下さい。

目録コーナー配置図



分館雑記

工学部では今年4月既設5学科の定員改正と共に、情報工学科が新設された。情報工学科の新入生は87名である。

昨年の秋頃から分館に来る学生が増えて定員200の座席が満席になる事も珍しくなかったが、今年は特にその傾向が著しい。10時頃には座席の約8割が埋まり、昼頃には300名位入ってしまう事もある。特に目立つのは、白山学部学生の利用の多い事である。

最近の学生は特別勤勉なのだろうか、それともこれも世の不況の影響なのだろうか。いずれにしても利用者が増えて資料も、設備も有効に多くの人に使われれば、図書館はよいのである。

工学部学生自治会より予て申入れのあった開館時間の延長（毎日1時間）の件については、館員の労働強化に直結するのでこれまで実施にふみ切れなかった。

現在7名の職員と3名のアルバイトで運営しているが、今まで昼食時も交代でカウンターに2名ずつ出しており、土曜日は3時まで2時間の開館時間延長をして利用者へのサービスに務めてきたのである。7名の職員で常時これを行うのは相当な無理がかかっているのである。

これに加えて更に平日の時間延長は館員にとっても重大事なのだ。白山本館のように昼食時に、カウンターを閉めて休息できれいばずいぶんと楽なのだ。

分館連絡会で討議を重ねた結果、学生の勉学意欲を無視できないので、一応現在の人員で試験的に行う事になり、月・水の週2日間各30分間の時間延長を4月第2週より実施する事になった。工学部学生自治会に文書回答し、利用者には掲示により周知を計った。

しかし、実際の利用者は極めて少なく、第1回1名、第2回4名、第3回8名で館員は拍子抜けの態であった。5月に入っても利用者平均は約15名とサッパリである。貸出冊数だけは前年同月に比し320冊増加したが、これは情報工学科87名が増えた為であろう。折角の時間延長故、学生諸君の積極的な利用を願う次第である。（米山）

投書箱から

10円玉両替機を設置してほしい

(係より) 当図書館は利用者の研究活動ならびに、資料入手に便宜をはかるため、3階に複写専用室を設置するとともに、カウンターの前には、自由に使用できる自動複写機(U-B I X)を一台用意してあります。特に、後者については、しだいに利用者が増加しつつあり、どうしてももう一台増設しなければならない現状にきているわけです。他方、10円玉がないと使用できないという不便さがあります。そこで投稿者が指摘されているように、両替機の必要性を十分に考慮しなければなりません。

ところが、自動複写機の管理については、館員が行っていますが、金銭の取り扱いは経理課及び銀行が行なっているのが現状です。そこでさらに両替機の設置という問題ともなれば、両替機の効用や設置箇所、運営等をも全学的な立場から考えなければならないこともあり、直ちに館内に設置することは困難な状況にあります。

しかし、上記に鑑み、自動複写機一台増設の件さらに投稿者もいわれている両替機の設置については、現在も積極的に関係各課と交渉を行っておりますので、もう暫くお待ちくださるようお願いするとともに、今後とも御協力をお願いします。

最後に、現行の複写機利用の案内を致します。

①自動複写機

・利用時間

月曜日～金曜日 午前9時30分～午後9時

土曜日 午前9時30分～午後7時30分

・料金

1枚20円(10円硬貨のみ使用可)

②三階複写室(枚数が20枚以上の場合利用)

・受付時間

図書館開館時にカウンターで随時受付

・料金

1枚20円

①②とも複写は当館所蔵の図書に限ります。

詳細はカウンターでお聞き下さい。

日 誌 (51年4月～5月)

- 4月1日 図書館館内異動。新入職員3名(橋本, 神林, 小谷)及び大間配属
- 6日 図書館連絡会
- 7日～9日 新入生図書館利用のオリエンテーション
- 12日 図書館通常開館
- 15日 「図書館学講座史」法・社事務室より600部移管
- 20日～22日 国電ストにより、休校のため閉館
- 23日 館内図書選択委員会
- 26日 図書館運営委員会(於図書館会議室) 逐次刊行物分科会(於日本女子大学図書館, 栗沢, 中川参加)
- 28日 図書選択委員会
- 5月10日 図書館連絡会
- 12日 人事異動発令 世良図書課長総務部長として転出, 山内厚生課長図書課長として配属
- 14日 図書館会計監査
- 17日 滞貨対策委員会
- 18日 青葉学園短期大学教授, 図書館長森清氏他一名, 実習生受容要請のため来館
- 19日 図書館運営委員会 昭和51年度予算の件, 館長選任制度の件につき審議 逐次刊行物分科会(於立教大学図書館 中川参加)
- 20日 研修分科会(於国際基督教大学図書館 高橋, 高石参加)
- 21日 滞貨対策委員会 レファレンス分科会(於亜細亜大学図書館 河村参加)
- 22日 書誌学分科会(山内, 村田参加)
- 26日 図書選択委員会
- 28日 仏教図書館協会(於駒沢大学図書館, 島田参加)
- 31日 体育祭振替休業のため休館 昭和51年度漢籍担当職員講習会(京大 大学人文科学研究附属東洋文献センター 鹿島参加) 6月5日まで